

平成28年度学校地域連携コーディネーター情報交換会（全体会）を開催しました。



【会場の様子】

平成28年5月25日（水）に、学校地域連携コーディネーターを対象に、「平成28年度学校地域連携コーディネーター情報交換会（全体会）」を開催しました。校内行事等により参加できなかった学校地域連携コーディネーターを除く、145名の学校地域連携コーディネーターが出席し、情報交換等を行いました。

今回は、市立三橋小学校の下條 清コーディネーターと、市立大成中学校の金子 有哲コーディネーターの2名が、スクールサポートネットワーク（SSN）における、地域との連携を中心に、所属校での活動内容を発表しました。

下條コーディネーターからは、三橋小学校での取組の紹介の中で、「地域・保護者の信頼や支援があってこそ学校教育は成り立ち、地域の中の学校として育っていく。地域との信頼関係を構築し、学校への支援や協力を快く受けていただくためには、一方通行のお願い事だけではなく、地域に足を運びまた学校に足を運んでいただき、地域の声を生で聞き、相互関係を確かなものとしていくことである。このことも学校地域連携コーディネーターの職務の一つであると考え。」とし、地域に足を運び、多くの人と会い、多くの人のお話を聞き、多くの課題を発見することの大切さについてお話がありました。



【下條学校地域連携コーディネーター】



【金子学校地域連携コーディネーター】

続いて、金子コーディネーターから、大成中学校での取組の紹介がありました。チャレンジスクール、朝読書の時間の読み聞かせ活動、中学生職場体験事業「未来くるワーク体験」や赤ちゃん幼児ふれあい体験等について、地域の方々から多大な御協力を得て実施していることについてお話がありました。また、生徒が地域の方と防災訓練に共に参加したり、コンサートやまつり、高齢者とのふれあい活動等、地域の団体が主催する催しへの参加、作品展示等をしたりすることで、地域の方々との交流を深めていることについてもお話がありました。

学校地域連携コーディネーターは、さいたま市では、全ての市立小・中・特別支援学校に1名ずつ配置されている学校職員で、学校と地域の皆様をつなぎ、地域ぐるみで子どもを育てるために、日々活動しています。本年度も、引き続き各学校でのSSNの取組をご紹介します。

今回は、桜区の市立上大久保中学校の取組を御紹介します。

上大久保中学校では、「地域と学校が連携して子どもを育てる環境作り」を目指して取り組んでいます。



【上サポ協議会での生徒会発表の様子】

〈スクールサポートネットワーク『上サポ』〉

上大久保中学校の地域の皆様は、本校の生徒たちに、地域においてはもちろんのこと、行事ごとに学校に足を運び、温かい声をかけてくださっています。

本校のスクールサポートネットワーク『上サポ』は、そんな地域の方々と学校とが一丸となって子どもを育てていけるよう、年2回の協議会を開催しています。

今年度の第1回協議会では、生徒会生徒から年間行事、生徒の活動について発表がありました。

また、年度末には、給食試食会を兼ねた懇談会を予定しています。

〈チャレンジスクール『上チャレ』〉

開講して5年度目を迎え、毎年90名を超える登録生徒がいる中で、「生徒の学力の向上」を目的に、学習アドバイザーの皆様が生徒一人ひとりに対して丁寧に学習の手助けをしてくださっています。

また、PTAの皆様にも生徒の学習環境を助ける安全サポーターとして、輪番で活動を応援いただいています。

実行委員、学習アドバイザー、安全サポーターの皆様による様々な角度からの支えによって、生徒たちは充実した学習ができています

今年度は漢字検定試験、数学検定試験を含め、年間32回実施する予定です。



【上チャレ開校式の様子】

〈学校ファーム〉

給食委員会・ボランティア部・特別支援学級の活動として、校舎南側のファームで、じゃがいもやさつまいもを作っています。

ファームの土作りや種の選定は、地元農家の方がボランティアでお手伝いしてくださっています。収穫時には、生育過程の説明や環境の違う苗の比較についてわかりやすくお話くださり、生徒たちはファームを通じて食育を学んでいます。

ファームで獲れた野菜を給食で食べられることも、生徒たちの楽しみの一つです。



【学校ファームでの活動の様子】

上大久保中学校の取組から、地域の皆様、保護者の皆様、生徒、学校が連携・協力して、様々な活動に取り組んでいる様子が伝わってきます。

今回は、岩槻区の市立西原小学校の取り組みを御紹介します。

西原小学校では、「異学年交流と体験重視」の教育活動を行っています。



【茶道教室の様子】

〈放課後チャレンジスクール 茶道教室の一コマ〉

本校のチャレンジスクールの特徴は、異学年交流、体験重視の活動を行っていることです。放課後チャレンジスクールは、茶道、パソコン、わくわく遊びの3コースを同時開催しています。

茶道を一年間行くと、お点前だけでなく正座の姿勢も美しくなります。わくわく遊びは、絵手紙、折り紙、もの作り、四季の植物探しなどを行います。また、全体で活動する日も設けてあり、武道体験、フラダンス体験、集団レクリエーション、自由研究講座、漢字検定講座、科学実験講座などを行っています。

〈土曜チャレンジスクール 国際交流の一コマ〉

土曜チャレンジスクールは、夏休みも含め月2回ほど実施しており、本物に触れる体験活動を重視しています。活動は、綾瀬川での生き物採集、四季のプラネタリウム体験、選挙管理委員会から本物の選挙用具を借りての模擬選挙、環境センターによるゴミスクール、外国の方をお招きしての国際交流、芋ほり、遠足、集団レクリエーション、グランドゴルフ、音楽会、もの作り、料理作りなど様々な内容で行っています。児童のためならと、地域の方々、保護者の皆さんが協力して下さることが本校のSSNの源になっています。



【外国の方をお招きしての国際交流】



【2年生の制作した創作人形】

〈開校以来38年間続く人形集会 創作人形の一コマ〉

岩槻は「人形の街」として全国に知られています。本校でも1年生は、壁掛け人形、2年生は、身近材を使った創作人形、(左図写真)3、4年生は陶塑人形、5年生は童人形、6年生は干支木目込み人形作りを行っています。作品の中には、図工の教科書にも取り上げられたものもあります。

2月には、これらの人形を体育館に飾ります。700体以上の人形が飾られている様子は圧巻です。そして、普段SSNでお世話になっているの方々をお招きして、人形集会を行います。本年度で開校以来38年目になります。

西原小学校の取組から、地域の方々、保護者の皆さんに御協力いただき、子どもたちが地域の伝統をはじめ、本物に触れながら様々な体験を行い、学んでいる様子がうかがえます。

今回は、浦和区の市立木崎中学校の取組を御紹介します。

木崎中学校では、「家庭・地域との連携に努め、信頼される学校」を学校経営方針に掲げ、取り組んでいます。



【真剣な眼差しで学習に集中】

＜木崎中学校チャレンジスクール＞

木崎中学校では、青少年育成地区会役員や自治会役員、元教員、大学生等、学区内の住民の方々の御協力により、生徒たちに学び喜びを味わってもらい、学習習慣の定着と学力向上を図るため、「木崎中学校チャレンジスクール」を開設しています。

秋季からは、数学に対する学習意欲が高く、高度な内容を学び、学力向上を望む3年生を支援する目的で、「数学科アドバンスコース」を併設しています。

参加した生徒たちからは「苦手な教科に取り組む意欲が高まった」「勉強が楽しい」などという声が多数届いています。

＜赤ちゃん・幼児触れ合い体験＞

昨年の秋に、地域に居住する親子（赤ちゃん・幼児と母親・父親）に来校していただき、3年生285人が技術・家庭科の授業で「赤ちゃん・幼児触れ合い体験」を行いました。

この取組は、学区内の公民館の子育てサークルで活動している親子を毎回8組ほど招いて、生徒たちが赤ちゃんや幼児と遊んだり、母親、父親から子育ての遣り甲斐や、苦労、工夫点等を聞いたりするという内容で、毎年実施しています。

この体験を通して生徒たちは、赤ちゃんや幼児のぬくもりを肌で感じ、「命の尊さ」「親子の絆の深さ」を学びました。



【赤ちゃん・幼児のぬくもりを体感】



【スーパーマーケットで商品管理を体験】

＜未来くるワーク体験事業＞

1月18日(水)～20日(金)の3日間、1年生279人が、地域の79事業所の御協力を得て、職場体験学習をしました。

この体験学習では、生徒たちは働くことの意義を考え、社会性や感性等を磨くとともに勤労観を養うなど、五感を通して様々なことを学ぶ貴重な機会を得ることができました。

3日間学校から離れて地域の方々と触れ合った生徒たちからは「お客様から『ありがとう』と言われて、とても嬉しかった」「働くことがこんなに大変なことだと思わなかった」「みんな親切だった」などという感想が寄せられました。

木崎中学校の取組からは、学校と多くの家庭・地域の皆様が連携することで、生徒が学校内だけでは体験できない多くのことに触れることができている様子が伝わってきます。